

A 部会のまとめ

協議主題 1	新型コロナウイルス感染症対策にも配慮した幼稚園の活動
--------	----------------------------

1. はじめに

2019年12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてからわずか数か月でパンデミックと言われる世界的な流行となった新型コロナウイルス感染症一。

命を預かる現場とし、何を行っていけばよいのか迷い、悩んだ日々を送っていた。

そんな迷いの中、現場でどんなことが起きていたのか、また同様な対応や対策を行ってきたのかなどに着目し、実践してきた行事などの事例をあげながら、より良い感染症対策について協議してきた。

2. 実践事例の概要

事例 1

令和元年度末から令和2年度始めに発令された新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言に基づき、自粛中の園児・家庭への対応・職員間の意思統一・開園に対する感染対策・園生活開始後の行事や保育内容を検討し、徐々に日常保育を行えるように工夫したことの実践発表を受け、行事を行ううえでの見極めのポイントは何なのか、どう判断してきたのかなど、討議した事例である。

事例 2

全園児を対象に行った「夏祭り」の実践報告。コロナ禍でなかなかできなかった行事を、形式や場所の工夫で行うことができた話を聞き、今後の保育には欠かせない、環境構成や、行事を行うために必要なことを再認識し、各園でも取り入れることができそうな事例が多くあった。

事例 3

市の運営する施設を利用した行事でどんなことに配慮をし、どんな工夫を行ってきたのかの実践報告。コロナ禍で、簡単に行えなくなった行事をどのようにしたら安心・安全に行えるか職員間での話し合いが密にされ、実践へと移すことができていた。

事例 4

緊急事態宣言を受けてから新型コロナウイルスに対する危機感が高まり、登園自粛中の登園園児が少ない時期に職員間で保育の見直しを行った事例。特に環境構成の見直しに重点をおき感染者が出ないように努めた実践報告であった。

3. 協議のまとめ

新型コロナウイルスが流行した時には絶望感にさいなまれていたが、時が経つにつれ感染症対策・ガイドラインができ、少しずつだが日常を取り戻しはじめ保育も行えるようになっていった。感染者を出さないようにと、手指消毒・マスクの徹底に迫られる日々の中、どのようにすれば安全に過ごしていけるのか検討の毎日だった。子どもたちの成長に欠かせないのが「運動会」や「生活発表会」「遠足」「プール」などの行事である。その行事を行うこともままならず、中止にせざるを得ないことが続くこともあった。どのようにしたら、参加者が安心して参

加できるのか、また納得してもらえるのか、数多くの話し合いを行ってよりよい方法を見い出してきた。何度か話し合いを重ねた結果、室内で行っていた行事を外で行うようにしたり、「入場規制」を行ったり、参加者の体温チェック表を作成を行ったりと「環境の変更」や「環境の再構築」をすることで改善されることが多かった。

環境を変えることは、容易ではないが職員で力を合わせることで実現でき、またその努力を目の当たりにした保護者からも協力を得ることができるように思う。

まだまだ、収束しないコロナウイルスと闘っていくうえで必要なのは、職員間での情報交換・保護者への情報提供だと考える。見えないウイルスとの闘いには、保育を見える化にすることで行いやすい環境を提供できるのではないだろうか。これからも、子どもたちのためにできることを全力で行っていききたい。

4. 指導・助言

A 部会の協議主題である「新型コロナウイルス感染症対策にも配慮した幼稚園の活動」は、全国共通の協議主題であり、今なお、多くの園で新たな取り組みが模索されているテーマである。日本における新型コロナウイルス感染症の感染拡大や社会状況に臨機応変に対応しながら、子どもの命を預かる現場として何ができるのか、さまざまな工夫を凝らした4本の事例が報告された。事例を検討する中でどの園にも共通していた点は次の2点であった。

- (1) 従来、保育・幼児教育の現場で大切にされてきた環境構成の中に、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策（ソーシャルディスタンスの取り方や手指消毒の方法等）が生かされていた。環境を通して子どもの主体性を育むという保育・幼児教育の基盤が大切であることに、部会のメンバー全員が改めて捉え直す契機となった。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に対応した行事の企画・運営の工夫である。各園で取り組み状況を丁寧に聞いていくことで、2020年度はなかなか実行できなかった行事も、工夫次第で2021年度は開催したという園が多くあった。また、保護者から「行事を開催してほしい」という声が多く聞かれた。保護者の理解を得ながら感染防止対策をとりつつ、子どもの成長を見守る場としての行事は、現場にとって欠かせない活動の一つであることが確認された。

今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大のような未曾有の出来事は、今後も遭遇する可能性がある。命を預かる保育・幼児教育の現場として何ができるのかということを検討し続け、保育・幼児教育の特性を生かした活動を期待したい。